

「 大雨に備えて 」

青森県 八戸市立白鷗小学校 6年 鳥谷部 慎心^{とりやべ せな}

「台風みたいな雨だなあ。」

ザーザーという大きな雨の音。家の前の道路は、川のように水が勢いよく流れていた。いつもとちがう様子にぼくは、怖くなった。

「だいじょうぶかな。」心配で心が落ち着かなくなり、窓から何度も外の様子を見た。

次の日。雨はやみ、道路の水も引いていた。家の周りの様子は普段と同じにもどっていた。

「よかった。」ぼくは、ほっとした。すぐに、いつもの生活にもどったので、この時のぼくは、大雨の被害が出ているなんて想像もしていなかった。

それから数日後、学校で夏休み中の新聞記事を読む時間があった。地域のお祭りが2年ぶりに開催された記事、花火大会の記事など楽しそうな記事の中に、家が半分泥水に沈んでいる写真を見つけた。「あの大雨の日の記事だ。」ぼくは、気になって記事を読んでみた。そこには、記録的な大雨だったこと。土砂崩れが発生し、観光バスが土砂にはさまれたこと。約1万世帯が停電したことなどが書かれていた。こんなにたくさんの被害が出ていたなんて……。ぼくは、あの日の怖さがよみがえってきた。あの時、ぼくは外の様子を何度か見ただけだったけど、もしもの時、どのようにしたらよかったのだろう。

ぼくは、4年生の社会科の時間に、津波のハザードマップを調べたことを思い出した。その地図には、想定される津波の高さや避難所の場所が書かれていた。「大雨の時のハザードマップもあるのかな。」と思い、ぼくは、青森県のホームページを開いてみた。すると、土砂災害のハザードマップも、市町村ごとに載っていた。

ぼくは、早速自分の地域のハザードマップを開いてみた。マップには、どのくらい浸水するか、過去に浸水した場所、避難経路など、安全に避難するための情報が分かりやすく書いてあった。ぼくの地域は、線路のあたりの土地が低く、警かい区域になっていることを初めて知った。そのマップには、地図だけでなく、土砂災害に備えておくべきことが書いてあった。イラストや図が付いていたので、どのような備えが必要なのかよく分かった。その中で、ぼくにでもできそうなことを3つ見つけた。

1つ目は、避難所や避難経路を確認しておくこと。これは、地震や津波のときと同じ備えだと感じた。ハザードマップを家族と一緒に見て、しっかり確認しようと思う。

2つ目は、前兆現象があったら、大人に知らせること。小石がたくさん崖から落ちてくる。いつもとちがう音やにおいがするなど、目や耳、鼻で、普段とちがうことを感じたら、すぐに大人に知らせて、安全を確認してもらうことが大切だと分かった。

3つ目は、食料や水などの防災グッズを準備しておくこと。これも、地震や津波の時と同じだった。最新の情報を得るために、ラジオを準備しておくことよいことも書いてあったので、家の防災グッズの中にラジオが準備してあるか家の人とすぐに確認しようと思う。

ぼくは、大雨でこんなに大きな被害が出ることを知らなかった。今回調べてみて、窓から外の様子を見ていただけのあの日のぼくの行動は、備えが足りなかったと感じた。もし、あの雨が何日も降り続けていたら、高いところから大量の雨水が流れ込んできていたら、ぼくたち家族は逃げ遅れていたかもしれない。そう思うと、また怖くなってきた。

災害はいつ起きるか分からない。でも、大雨の情報は、天気予報などで早めに知ることができる。だから、大雨が降ると予報が出たときは、台所に置いてある防災グッズを玄関に準備したり、スマートフォンやラジオの充電を確認したりして、いざという時のために家族みんなですっかりと備えていこうと思う。